

モデル6高校

主体的学習 意欲高める

県教育 課題解決型 成果を紹介 総合研



地域の課題解決や未来について意見を交わす
高校生＝11日、坂井市の県教育総合研究所

県内6高校がモデル校として取り組んできた課題解決型の県教育総合研究所であつ

た。観光や外国人交流、人口減などの観点から考察した地域活性化策について、各校が1年間の成果を紹介。自ら課題を設定し解決していく手法を共有、主体的に考える学習スタイルへの意欲を高めた。

県教委が昨春モデル校に指定した羽水、敦賀、若狭、丸岡、勝山、鯖江の各校から1、2年生計約100人が参加した。

パネルディスカッションは、各校の生徒代表11人と福井大学院の木村優准教授がパネリストを務めた。生徒代表は、学習を通して育んだ力や、地域の未来像を発表した。勝山高は人口減が進む勝山市を考慮するため、財政破綻した北海道夕張市を訪問。「夕張市や同規模の他市の現状と比較することで、広い視点を持って客観視する力が付いた」とした。

若狭高は、民宿の人が外国人とのコミュニケーションを図る手段として「指さしシート」を開発。民宿に話を聞き、使つ側の立場で改善点を探るなど、物事を多角的に見られるようになったと説明した。

「新たな観光資源を生み出すことがまちおこし」「人と人とのつながりを意識した社会を」など未来への提言もあった。

(大橋一生)